

2つ目は「熱意」です。「咆哮」は、81mm迫撃砲の射撃訓練の写真ですが、自分も迫撃砲小隊の所属でしたので、「81mm迫撃砲を一番格好よく撮れるのは自分だ！」という熱意を持つて撮影を行いました。私は普通科職種の良い部分をたくさん知っています。そういった格好い部分、格好いい部分がたくさんあります。分が格様に伝わるような写真を撮りたいと、常に熱意を持って撮影に臨んでいます。



これは社会人になる方々には、豊かな感性を持つてほしいと思います。撮影では、隊員の動きや表情、言葉にならないものを感じとる感性を写真で表現することが求められます。シャッターを切る時の私自身の「いいね」という思いが、写真を見た方にも「いいね」と思われ、そして撮られた隊員が「いいね」と思ってくれることで勤務意欲の向上に繋がれば、それが理想的ですね。

感性は状況を正しく読み取り、人と深くつながる力になります。それは皆さんが力になり、社会に出ていく上でも、必ず何かしら力になるはずですね。そして感性は生まれるべき才能ではありません。人との出会いや経験、見るもの、聞くものに心動かされる中で、少しずつ深まっています。いろいろな人と出会い、いろいろな風景を見て、どんな感性を伸ばしていってください。



陸・海・空 自衛官募集
大分 本地

私の勤務地
陸上自衛隊 別府駐屯地

別府駐屯地のある別府市は、温泉と美味しい物がたくさんあります。海にも近いので釣りにも行きたい放題です。訓練もプライベートも充実する別府駐屯地は最高です。

2024年度作品

新緑



カメラを扱うようになったのは3年前からです。それまでは、普通科の迫撃砲小隊にいたのですが、ラとは全く無縁だったのですが、広報班へ配属となり、初めてカメラを扱う事になりました。勿論、全てがイチからなので、最初は写真が真っ黒だったり、真っ白だったり、被写体が幽霊みたいになっていたり、またともに撮れるようになるまで、かなり苦労しました。ある程度のレベルの写真が撮れるまで1年ぐらひはかかりましたかね。自衛隊の中でもカメラの教育



※記載している情報は全て取材時のものです。
Akinori Sato
佐藤 明紀
3等陸曹
本部管理中隊
連隊本部第1科広報班
(別府駐屯地)

僕らがここに立つ理由
Why are you here?

がありましたし、カメラ好きの先輩からアドバイスを買取事もありました。ネット上でプロカメラマンの解説動画を見たりもしましたね。使い続けて操作を覚えていくに連れ、写真撮ることが楽しくなり、自分でカメラも購入しました。休日には朝日や星空、花を撮ったりしています。そうやって勉強した結果、「第4師団フォトコンテスト」で最優秀賞を受賞できました。撮影時に心がけていることは2つあります。1つ目は「コミュニケーション」です。令和6年度の優秀賞をいただいた「咆哮」という写真を撮った時の話ですが、被写体の隊員に「今日は君をカッコよく撮るから、カメラに向かっただろう」と伝えてから撮影をしました。実は、もともと所属していた部隊で、写す隊員も自分の後輩だったので、最初からコミュニケーションは取りやすかったというところはありますが(笑)。自然な姿を撮影する事も大事だと想いますが、あえて伝える事で相手のモチベーションを上げ、自分のイメージへと近づけるのもアリだと思います。一種の演出ですがね。



陸上自衛隊第4師団フォトコンテスト

最優秀賞
疾走

僕らがここに立つ理由

佐藤明紀3等陸曹の場合

その一瞬を

切り取る。

スマホ等を使って、撮影した画像をSNSに投稿するのは、今の社会では日常的な行為である。言わば現代は「総カメラマン社会」と言えよう。それなりの拘りを持って、そういったSNS用の画像を撮影している人も多いかもしれない。

そういった「撮影」というスキルは、一見、自衛隊とは全く関係のないものに思えるかもしれないが、実は自衛隊の中でも写真撮影のスキルは必要とされる。当然ではあるが、自衛隊は広報活動を行うし、HPやSNSも使用している。良い写真というのは必要なのだ。そういう撮影のスキルアップを企図して、毎年、陸上自衛隊全体での写真コンテストが行われているが、近年では、もっと小さい部隊単位で行われることも珍しくない。「センスある写真が撮れる」。それは自衛隊の中で評価されるスキルなのだ。自衛隊最大のコンテストである「PHOTO OF THE YEAR」で2024年度に入賞を果たした、別府駐屯地広報班の隊員に話を聞いた。

Oita Poo Letter No.29

Nov.2025

PHOTO OF THE YEAR 2024
Excellence Award



咆哮

Why are you here?

